

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

アジアに間伐材輸出

森林守り利益生む

日本伝統の技を使い、幅の細い板に彫られた溝を組み合わせて、くぎを使わずに組み立てられる「組手什」という部材が話題です。これまでは捨てられていた端材や間伐材の新しい利用法として注目されています。

あまり知られていませんが、鉄鋼商社の阪和興業は日本の間伐材を輸出しています。2010年には日本から輸出された間伐材などは約6万3千立方メートルでした。阪和興業は、このうち約4万3千立方メートルを輸出しました。

間伐事業は林道整備が必要で、運び出しも大変です。流通ルートに乗るまでのコストが高く通常は採算が取れないとされます。しかし、阪和興業は地方自治体や林業を手掛ける事業者と協力して、顧客の要望に合ったさまざまな種類や長さの間伐材を低コストで調達するノウハウを確立し、輸出を促進しています。

インド、台湾、中国、韓国に加え、最近ではベトナムにも輸出しています。中国は、国土は広いけれど森林が比較的少ないという事情があります。東南アジアでもヒノキやスギの丸太の需要が多いそうです。ヒノキの間伐材は香りが良く殺虫効果もあるため、人気があります。阪和興業は現地に到着するまで香りを持続させることができる方法を研究しています。

森林を維持するには、定期的な間伐などが必要です。しかし日本の林業は、人も資金も不足しており、森林の荒廃が進んでいます。

日本の森林を守るには政府だけでなく民間の力も取り込む仕組みが必要です。社会貢献の一環として森林に関わり、かつビジネスとして成功させている阪和興業の例は、注目していいでしょう。（株式会社グッドバンカー）